

# 予 算 要 求 資 料

令和 3 年度当初予算 支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：地域振興対策費

## 事業名 ぎふ・富山交流バスツアー事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

清流の国推進部 地域振興課 地域プロモーション係

電話番号：058-272-1111 (内 2099)

E-mail：[c11143@pref.gifu.lg.jp](mailto:c11143@pref.gifu.lg.jp)

1 事業費 577 千円 (前年度予算額：591 千円)

### <財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	591	0	0	0	0	0	0	0	591
要求額	577	0	0	0	0	0	0	0	577
決定額									

## 2 要求内容

### (1) 要求の趣旨 (現状と課題)

本事業は、東海北陸自動車道が全線開通した平成 20 年 7 月 5 日を「富山・岐阜交流の日」として両県知事が締結した協定書に基づき、両県の交流を一層促進するため実施することとなった記念事業の 1 つである。

平成 21 年以降、毎年 7 月に県民レベルでの交流促進を図る事業として、お互いの県の魅力を体験する日帰りバスツアーを実施している。

### (2) 事業内容

#### <ツアー内容 (予定) >

○実施時期 令和 3 年 7 月 (2 コース)

○募集定員 各 40 名

○実施形態 岐阜県民が富山県の行政施設、文化・景観・自然を体験できる施設を訪問するツアーを実施。訪問施設は富山県の提案を受けて決定する。

※富山県は、富山県民が岐阜県を訪問するツアーを同様に実施。

(3) 県負担・補助率の考え方

県 10/10

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	16	業務旅費
需用費	2	消耗品費
委託料	555	ツアー実施委託料
使用料及び賃借料	4	ツアーに同行する職員の有料施設の入場料及び利用料
合計	577	

**決定額の考え方**

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

「清流の国ぎふ」創生総合戦略

3 地域にあふれる魅力と活力づくり

(1) 地域の魅力の創造・伝承・発信

(2) 後年度の財政負担

毎年度同程度の財政負担が必要。

# 事業評価調査書

新規要求事業

継続要求事業

## 1 事業の目標と成果

### (事業目標)

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

富山・岐阜交流の日にちなみ、両県の交流を目的とした観光バスツアーであり、両県民がお互いの県を体験することで理解を深め、より一層交流が促進されることを目指す。

### (目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業 開始前	指標の推移		現在値	目 標	達成率
		(前々年度末時点)				
バスツアー参加者数	一人 (H20)	80人 (H21)	800人 (H30)	880人 (R01)	1,120人 (R04)	78.6%

### ○指標を設定することができない場合の理由

--

### (前年度の取組)

・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）

下記のとおり実施予定。各コースとも定員20名。

令和2年11月12日 富山コース

2 11月 7日 五箇山コース

※新型コロナウイルスの影響により、開催時期を調整し、定員を半分にするなど対策をして実施。

【参考】富山県実施分。各コースとも定員20名。

令和2年 9月26日 飛騨コース

〃 10月 1日 郡上コース

### (前年度の成果)

・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果

参加者アンケートによれば、ツアー参加を大変満足・満足と答えた人の割合は約94%（R1）であった。参加者からは、「富山県との交流促進にこの事業は有効だと思う」、「また富山に行きたくなった」といった意見もあり、両県の交流促進に一定の成果が得られた。

## 2 事業の評価と課題

### (事業の評価)

・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い      △：必要性が低い	
(評価) ○	お互いの県民が、お互いの県をそれぞれ行き来し、実際に体験することで、相互理解が進むと考えられる。また自身の県に対する誇り・理解を深める効果もあり、本事業の実施は必要性が高いと考えられる。
・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおり又はそれ以上の効果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない	
(評価) ○	令和元年度は募集定員80名に対し461名もの応募があるなど、県民からの人気が高い。このように、毎年、実際に多くの県民に利用されている事業であり、富山県に対する理解を深めることにつながっていると考えられる。
・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている      △：向上の余地がある	
(評価) ○	参加者の満足度は例年90%前後と、高いコストパフォーマンスが図られている。また、バスの発着地（毎年2か所）を毎年変える（飛騨圏域を除く各圏域を順番にまわす）ことで、より多くの県民が参加しやすい環境を整えている。令和元年度は3ヶ所からの発着とした。

### (今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 本事業は県民から高い人気を得ている事業であるが、参加者の多くが年配者であったため、27年度に新機軸を打ち出し、2回のツアーのうち1回を子ども連れ優先とした。今後も、親子連れや若者、高齢者まで幅広い世代の参加を得ていく必要がある。 また、Withコロナに対応したツアーの実施を徹底する必要がある。
---

### (次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 本事業は、平成20年7月に岐阜・富山両県知事が締結した「富山・岐阜交流の日」協定書に基づいて実施しているものである。事業開始以来、応募倍率が一貫して高く（平均7倍）、参加者の満足度も毎年90%前後であり、県民ニーズの高い事業である。今後もこのニーズを踏まえ、新型コロナウイルス感染症への対策（バスツアーにおけるガイドラインの遵守徹底）も行いながら継続実施していく。富山県側も継続実施の意向である。
--

